

建学の精神 『質実剛健、尚学共助の校風と知徳体の調和のとれた学びの場を目指す』(昭和57年11月1日)	
校 是 誠 実 意 欲 創 造	
教 育 目 標	重点目標
1. 真理を探究し、平和を尊び、自主的に行動する力を身につける。	1. 学力の充実を図り、日々基礎・基本を重視して思考・判断・創造力を育み、生徒の希望する進路実現を目指す。
2. 身心を錬磨し、不屈の精神を養う。	2. 生徒一人ひとりが意欲を持って諸活動に取り組み、達成感を得ることのできる学校づくりを目指す。
3. 勉学に励み、品性を陶冶する。	3. PTA(保護者)・地域(同窓会)・教員との三者の連携、協働により生徒を育み、開かれた学校づくりを目指す。
	4. すべての生徒と職員が誠実な心を持って規範意識を高め、いじめ・体罰を許さない、安心安全な学校を創造する。

評価項目	評価の観点	評価(%)※				現状・経過	成果・課題	改善策・向上策
		A	B	C	D			
学習の充実と 進路実現 (重点目標 1)	教育課程・シラバスに沿って、基礎基本の定着を図る授業展開ができたか。	17% ↘	74% ↗	9% ↘	0% ＝	来年度以降のクラス減に伴う教育課程の変更に対応するべく努めてきた。職員定数減と多様化する生徒に対応できるよう、教科の特性に工夫を凝らし取り組んだ。	各学年とも基礎力の充実と、学力向上に向け、授業、補習などを計画・実施した。学習の成果を生徒にフィードバックしていく工夫が継続した課題である。	実態に合わせた授業運営と家庭での学習が習慣化するよう課題を設定・指導を工夫し、実感の持てる学習成果に導く必要がある。
	生徒に学ぶ理由を考えさせ、ICT機器等の活用などにより、意欲を喚起し、学習習慣を身につける指導を行うことができたか。	4% ↘	65% ↗	26% ↗	14% ↗	意欲的に授業に取り組ませるために、ICT機器等を活用した授業を行った。また、進路等を意識させることで学習習慣を身に付けさせる指導を行った。	ICT等の活用により生徒が意欲的に授業に取り組む姿が見られた。一方で、進路意識に差があるためか、学習習慣については生徒によって大きく差がある。	さらなる生徒の意欲の喚起のために、より効果的なICT機器等の活用方法を検討していく必要がある。また、学習習慣の習得のために、授業のみならずさまざまな角度から指導を行う必要がある。
	進路実現のための適切な情報提供と、個々の生徒の希望に添った進路指導ができたか。	17% ↘	78% ↗	0% ＝	4% ＝	学年・担任または生徒個人に対して時宜に応じて進路情報を提供した。可能な限り学校説明会等に参加し、情報収集に努めるとともに、内容によっては上級学校へ情報提供を依頼した。高大連携を推進している。就職指導においてはハローワーク・ネットなど連絡を密にし、企業から得られた情報とともに提供してきた。担任・係による個人面談等を通じ、個々に具体的な指導を行った。	卒業予定者は、進学・就職とも概ね希望する進路実現ができた。一方で進路実現しようとする意識の低い生徒の指導が課題である。また、上級学校において多様な入試形態や分野(学部・学科・コース)の細分化や改革が進行中であり、情報量に対して時間的ゆとりがない。近隣大学との高大連携を進めることができた。	高大連携を一層推進し、情報の共有を図り、進路指導に生かす。生徒の希望進路(分野)に応じた上級学校見学、出前授業、企業見学・体験を積極的に行うとともに、生徒・保護者自ら主体的に進路情報を得ていく指導を行う。
	キャリア教育を推進し、生徒が希望進路を実現できるように、進路意識の向上を図ることができたか。	4% ↘	78% ↘	13% ↗	4% ↗	各学年において、生徒の状況に応じた進路ガイダンスや講話などを実施した。また、進路説明会・オープンキャンパス参加指導、進路相談会への参加指導、出前授業や上級学校見学の実施など、進路実現に向けての意識喚起に努めた。就職指導では企業見学・就業体験の実施、企業ガイダンスへの参加などに取り組み、進路意識の高揚に努めた。	昨年同様に進路意識を高く持ち、日々の学習活動などに励んでいる生徒がいる一方で、主体的に自己の課題として取り組めない生徒がいる。この両者の差が大きい。	生徒の自己理解を深めさせ、進路実現が自己の課題であることを早期に理解させる。また進路学習に生徒が主体的に取り組むよう指導し、1学年から職業・学問研究を行い、さらに課題解決学習に取り組むなど視野を広げ、深める指導をする。進学・就職などにインテンシブ等体系的な学習の一環の充実をはかる。また、進路希望調査は、統計的調査だけでなく「生徒の進路意識の高揚」「保護者の考えの事柄と意識喚起」の2つの側面を意識して実施し、事後個別指導を実施する。
自主活動の 活性化 (重点目標 2)	蒼穹祭・クラスマッチなどの学校行事を充実したものにできたか。	26% ↗	70% ↘	0% ＝	4% ↗	蒼穹祭テーマ「無敵〜可能性は無限大〜」のもと企画を考え協力して実行することができた。クラスマッチも体育委員会を中心に放送・保健・整美委員会と協力することで滞りなく運営することができた。美化ピカは今年度より生徒会行事となったが、PTA係と協力し行い、多数の生徒が参加した。	文化祭日程を準備と片付け清掃の時間をとれるように変更し実施したが、清掃の徹底ができなかったと感じる。クラスマッチは生徒の安全に配慮し実施した。盛り上がり、クラスの団結を深める事ができた。	完成度の高い文化祭にするために早期に企画を計画し、それを形にするために多く情報を収集し、検討する会役員の中で増やしたい。クラスマッチは生徒の安全に配慮し実施する。
	生徒会活動・クラブ活動を活性化させ、田川高校全体の活力を高めることができたか。	13% ↘	61% ↘	22% ↗	4% ↗	地域のデيسーパーセンターや学童クラブとの交流をもつことができた。	数多くの地域交流に参加させていた。生徒会の生徒だけでなく、一般生徒にもどう広めていくのが課題である。	生徒全員の意識を高めるために、本部・新聞・放送が中心となり情報を定期的に全校生徒に発信する。それぞれの委員会活動でも新しい活動を取り入れ一人一人の意識を高め、学校を活性化していく必要がある。
	清掃活動にきちんと取り組むよう指導できたか。	17% ↘	52% ↘	30% ↗	0% ＝	毎日取り組むことができる生徒がいる一方で、消極的な生徒もいる。	ほとんどの生徒はきちんと清掃に取り組んでいる。また、ゴミの分別や清掃用品の扱いなどもよくなってきている。より積極的に取り組めるよう、さらに呼びかけをしていく。	大掃除やワックスがけの際の重点項目の設定、ゴミの減量化の呼びかけ、生徒の美化意識向上のための取り組みなど、工夫していきたい。
開かれた 学校づくり (重点目標3)	PTA・同窓会と連携して、魅力のある、地域から信頼される学校づくりを進めることができたか。	4% ↗	74% ↗	17% ↘	4% ↗	PTA総会を平日に実施した。理事会を減らすとともに、常任および専門委員会の廃止、講演会の見直し等で、負担なく継続しているPTA活動を本年度より実施した。	PTA総会は開催曜日による出席率の影響はなかったと思われる。しかし、春の総会、秋の学年・学級PTAも出席率が高いとは言えなかった。	PTA活動の負担軽減はできたが、保護者の来校を促す工夫が求められる。また、PTAの加入意思確認を始めている中学・高校も出てきている中、どのように対応していくのか検討していく。
	webページ・各種通信・公開授業・中学生体験入学など様々な機会をとらえ、田川高校を発信することができたか。	13% ↗	74% ↘	13% ↗	0% ＝	計画通り7月と11月に中学生体験入学を開催した。残念ながら昨年よりも参加者数が減少したが、内容や時期については概ね好評であった。Webページは、支援員の協力を得て見やすく、迅速に情報を伝えられた。「蒼穹通信」も学校生活がリアルに伝わるよう、写真を中心に編集、発行できた。公開授業は一般にも広報した。公開授業は一般にも広報した。公開授業は一般にも広報した。公開授業は一般にも広報した。	中学生体験入学では、授業及びクラブ体験ともに参加者からは好評であったが、より本校の魅力が伝わる内容に工夫すると同時に高校での学びについてもきちんと伝える必要がある。日頃の田川高校の教育活動をどのようにアピールできているのかという点も課題である。Webページ・蒼穹通信については、更新や発行を増やしていきたい。	再編計画の進捗中、授業・クラブ・生徒会活動など本校の魅力や今後のビジョンとそれらを発信していく必要がある。体験入学以外の公開授業を実施したり、webページや蒼穹通信などで、クラブ活動や行事などをタイムリーに更新・発行したりしていきたい。

規範意識と 自他を敬愛 する心 (重点目標 4)	遅刻指導など、基本的な生活習慣を構築させる指導ができたか。	9% ↗	52% ↗	35% ↘	4% ↘	学校生活のあらゆる場面において、時間を守る重要性は生徒に伝えている。今年度からSHRではなく、授業始まりとなり、遅刻が進級・進路に直結するようにした。	遅刻する生徒は固定化され、それらの生徒は急ぐ素振りさえ見せない。授業始まりであつても関係ない生徒は一定数存在する。	授業始まりとなったが、遅刻が減っているようには感じない。生徒の価値観自体を変える手だてが必要。
	交通安全・頭髪指導など、モラル・規範意識の向上を図る指導ができたか。	4% ↘	44% ↘	44% ↗	9% ↘	今年度も交通ルールを守っているなどの多数の情報提供をいただいた。頭髪の染色については全学年の該当者を集めて指導、一定の効果が見られた。特定の生徒が繰り返し指導を受ける状態は変わらず。また、ピアスに関しては違反者の数は増加している。	交通安全に関しては、集会などの場面で、全体に向け話をしたほか、オクレンジャーで生徒だけでなく保護者に対しても情報提供を行った。頭髪は指導方法の改善で一定の効果が見られた。ピアスに関しては悪化している。	頭髪の染色については、今年度のやり方を継続する。ピアスについての指導方法は現在検討中。交通ルールについては引き続き情報提供に努める。
	生徒の人権意識を高め、いじめ・暴力のない学校づくりができたか。	17% ↗	61% ↗	17% ↘	4% ↘	問題行動の件数は昨年よりも増加。SNSでのトラブルも継続して発生。暴力こそないものの、自分中心、他者の気持ちのわからない、感情のコントロールができないといった生徒が多い印象。	言葉遣いが悪い、「うざい」などの言葉が日常的に使用され、その重みについて理解していない印象。いじめについては加害者と被害者をセットで考えるのではなく、それぞれの行為や状況に個別に対応した。	暴力に対しては継続して厳しく対応したい。また、価値観自体にアプローチしていく方法を考えたい。いじめについてはアンテナをできる限り高くし、早期発見に努め、丁寧に対応したい。
	生徒個々の内面に寄り添って相談にのり、生徒の心身の健康を保つための支援ができたか。	26% ↗	52% ↘	17% ↗	4% ↗	コロナ禍を経てコミュニケーションに対する苦手意識が強い生徒が増えている。SNSの多用や友人関係の経験の不足に起因するトラブルに対処できず困難を抱えている。定例の係会では各学年、保健室からの情報を生徒を把握した。その上で、SC、SSWと連携し関係職員で対応を検討し支援に繋げている。	SCやSSWに繋げたり、地域域の支援担当者、医療機関などと支援会議を開いたり、常に外部機関と連携を図り、助言を得て、個々の生徒に適した支援を模索し実践してきた。優先順位がつけられず、山積する課題に苦痛を感じている生徒もいる。今後、学習面での支援体制も整える必要がある。	担任、教科担当、クラブ顧問、保健室などでキャッチした情報を迅速に共有し合い、家庭や外部の専門機関と連携を取りながら生徒に寄り添った対応を協議、実践する。校内研修を通して教職員の専門的知識を習得し、相談スキル向上を図り、より一層のチーム支援体制を強化する。

【〔達成度〕 A:ほぼ目標を達成した B:どちらかといえば目標を達成した C:どちらかといえば達成できなかった D:達成できなかった】

矢印 ↗ ↘ は、昨年度の間評評価との比較

※ 評価は全職員による